

このページにお立ち寄りくださり、ありがとうございます。

こちらでは、本プロジェクトを立ち上げた、ユニバーサル絵本ライブラリー—UniLeaf (ユニリーフ) について、ご紹介します。

【新しいユニバーサルデザインを駆使して ～ 絵本の活動】

ユニバーサル絵本 ライブラリー UniLeaf

英国発祥
日本初
ユニバーサルデザイン
絵本



私事ですが、二女が2歳の時がんで両眼球を摘出。いきなり障害児の母となり、知らされたのは、たとえ幼い子どもでも障害者とは関わりたくないという社会の「拒絶」でした。この現実が悲しみに追い打ちをかけました。

地域の小学校でも抵抗感は同じでしたが、準備と工夫で何でも一緒にやり、卒業時には副校長先生から「彼女と過ごしたことは子供たちにとって財産」と言っていただきました。誰でも知らなければ怖い、でも一緒に過ごす機会や互いの慣れが大事と、娘を通じ身を以て学びました。見える子も見えない子も一緒に使える英国発祥のユニバーサルデザイン絵本と出会い、2008年日本初導入、一人作り始めます。

それから15年、手作り絵本は1200冊を超え、私設図書室として年間1800冊、全国35の家庭・学校に定期貸出するまでになりました。見える人にも伝えたいと、絵本制作講座を高校の授業や大学、企業、市民向けにも行っています。「多様性を受容する姿勢を重視し、同じものを同じ環境で分かち合える場作りは貴重な取り組み」と2019年度内閣総理大臣表彰を受賞しました。

見える子も
見えない子も
一緒に楽しめる

一緒に過ごす機会
～相互理解を促進～



これまで15年、無償で働いてまいりましたのは、皆が一緒であることが当たり前の、子どもたちにとって少しでも生きやすい世の中になって欲しい・・・ただ、それだけです。“さわる”模型への情熱も願いもその一心で、営利の意図はありません。

最後まで読んでくださり、ありがとうございました。

子どもたちに、どれほど多くの方が君たちの笑顔を願っているかを知らせたい・・・皆様の思いと希望と夢を、私たちと一緒に形にしていってくださいませんか。子どもたちの未来のために・・・

 内閣総理大臣表彰

ユニリーフ
ユニバーサル絵本ライブラリー UniLeaf

神奈川県三浦郡葉山町 / 神奈川県推薦

<http://unileaf.org/>

代表者名: 大下 利栄子 活動開始: 平成20年7月 団体構成員数: 43名

見える子と見えない子が一緒に楽しめる、英国発、日本唯一の透明点字シート入りユニバーサルデザイン絵本 UniLeaf Books を製作、無償で貸出しています。

市販の絵本を解体し、手作業で制作したページ大の透明シートに本文を点字化して挟みこんだ絵本は、1,000冊に到達し、年間貸出数は延べ1,700冊以上、30余の個人・団体に定期貸出しています。

また、自ら全盲児を地域小学校で育てた経験から、絵本をツールとして理念普及のため、県立高校の授業や部活での製作、市民講座、イベント出展等を行っています。

■ 選考委員のコメント

「ユニバーサルデザイン絵本」として見える子供と見えない子供と一緒に楽しめる日本唯一の絵本を製作されている団体です。障害のある子供が孤立するのではなく、多様性を受容する姿勢を重視し、同じものを同じ環境で分かち合える場づくりは貴重な取り組みです。障害のある子供をもつ当事者の親としての想いがここまで周りの人を突き動かし、また継続していることを大変高く評価しました。

■ 受賞の言葉

20余年前、娘が失明し、社会の抵抗感や特別視に打ちのめされました。分離せず、幼い頃から一緒にいるのが当たり前だったら、そんな「慣れ」が「特別の子」を「普通の子」にするのでは…そのために時と場を共有するツールが一つでも増えたらいい…。そんな願いを込めて、見える子と見えない子が一緒に楽しめる、英国発、透明点字シート付きユニバーサルデザイン絵本を、一人作り始めました。11年後、手作り絵本は1,000冊を超え、利用者も協力者も全国に広がりました。この絵本を共生のシンボルとして、多くの方に知っていただく活動も続けています。誰もが知る「ユニバーサル絵本」になる日を夢見て…。この度は、身に余る栄誉を本当に有難うございました。



UniLeaf Books
『おおきなかぶ』A・トルストイ 再話/
内田 莉沙子 訳 / 佐藤 忠良 画より



市民絵本製作講座の様子



逗子高校生点字マスター



表彰状の授与